

平成 14 年度

第 2 回

大和市 協働ルール ワークショップ

H14.10.14 開催

発行日：平成 14 年 11 月 17 日 発行：玉川まちづくりハウス・大和市民活動課

平成 14 年度のスケジュール

第 1 回ワークショップ【H.14/9/23】

『新しい公共を創造する市民活動推進条例の精神を確認する』

「新しい公共を創造する市民活動推進条例」の精神を確認する。

今年度の検討事項を整理し、ワークショップの目的を確認する。

協働事業の可能性について考える。

第 2 回ワークショップ【H.14/10/14】

『協働のイメージを共有する』

協働事業の課題を整理する。

・市民事業、行政事業との比較検討
パイロット事業を企画する。

(住まい、子育て、高齢者・障害者、環境共生、リサイクル)

第 3 回ワークショップ【H.14/11/17】

『協働事業の指針を考える』

協働事業実務の検討のポイントを整理する。

第 4 回ワークショップ【H.14/12/8】

『協働事業をシミュレーションする』

モデルプロジェクトを通して指針の課題を点検する。

『協働事業推進の問題点を整理する』

残された検討課題を確認する。

ワークショップ型シンポジウム

【H.15/2/8】

昨日 10 月 14 日の午後、第 2 回ワークショップが、市民・スタッフあわせて 23 名のメンバーにより開かれました。また入間市の市民・職員の方 3 名がオブザーバー参加されました。



今回のテーマは「協働事業のイメージを共有する」でした。第 1 回ワークショップの内容を記録をもとに確認をした後、事務局から協働事業に関する現状について説明を行いました。そして、委員公募の際に提案があった事業アイデアについて何人かの提案者から説明がありました。

次に、提案されたアイデアのひとつ「おぢバンク」について、4 つのグループごとに協働事業としての企画提案書をつくる作業を行いました。各グループごとに様々な議論が行われていました。

最後に企画提案書の発表が行われ、発表内容について提案者の小杉さんからコメントがありました。

今回のワークショップは、具体的な企画提案書をつくる作業を通して、協働事業についての理解を深めることが大きなねらいでした。実際に提案書をつくるのはかなり難しい作業であるにもかかわらず、皆さん真剣に取り組んでいただき、様々な視点からの提案がされました。



まちかど一言提言・会議の方法

このWSに参加していて、参加者は決まったメンバーばかりである。外に出て行って、まちかどでインタビューして、一言提言してもらったらどうか。

WSの際、自己紹介に時間がかかり、効率悪く感じる。名前と住所くらいの簡素なものにしたらいかが。



腎友会・ヘルパー育成事業



腎友会は人工透析患者のための移送サービスを行っているが、採算性が非常に悪い。

患者の移送サービスを何とかタクシーより安く提供したいと思ってこのサービスを始めた。現在、事業費は5Kmまで800円、うち600円をボランティアに、200円を通信費など必要経費に充てている。毎月赤字。

市からの助成も受けているが、頼ってばかりという訳にもいかない。

市のホームヘルパー養成講座は定員以上の応募があり、希望者全員は受けられない状況にある。自分たちでホームヘルパー養成事業をやりたい。現在鋭意準備中。

神奈川県腎友会は会員3,500名ほどいて、防災手帳に様々な情報を記載している。その情報を防災マニュアルに反映させたい。

ちょっと質問！Q&A

Q. ホームヘルパー育成支援のような委託契約も協働事業なの？

市民活動課・井東さん

A. そこをつかれると、痛いところである。委託でも、市民と行政が、内容などを話し合える場があれば、協働事業と言えるのではないか。

ぜひこの場で話し合って欲しい。

パイロット事業を企画しよう！

「おぢバンク大和支店」の提案者である小杉さんに、イメージを説明してもらいました。

同じブロックに住んでいるSさんは花札の名手。会って話してみなければわからなかった。そういった人材 市民活動推進条例で言うところの「社会資源」がもっと埋もれている。

これから団塊の世代が高齢社会のキーワードを作っていく。会社をリタイアし、社会に出ていき、「会社人」から「社会人」へ。

企業戦士として培った技術、能力、情報を持った「おぢさん」の人材バンクが「おぢBANK」。

多摩市のNPOセンターのように、これから増えるだろう学校の空き教室も活動の拠点にできないか。

総合的学習に教師が対応できていない。学校の先生との協働の形がありうるのでは。

市民が「未来を生み出す糧」となるようなフィールドを作っていきたい。



📁 グループに別れて、「おぢ BANK 大和支店」の企画書を作成しました。

グループ1

男女協働参画の時代！「おば」も入れる。

子ども おぢ・おば
両方向にいい影響を及ぼすように

市民はまず「登録」する

事業名	おぢ おば BANK
協働の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代の子供達を育てる。おぢさん・おばさんが生きがいを持って暮らせる ・おぢBANKの方々も活躍して頂きたい。週五日制、地域で子供達をバックアップできる体制を作ってほしい。 ・シルバー人材銀行で登録されている、いわゆる「スペシャリスト」以外の事業を行う。 例) 児童のしつけ・怒り方(昔の町内のガンコ親父の様な存在)
<ul style="list-style-type: none"> ・行政の役割 ・市民の役割 ・企業の役割 	<ul style="list-style-type: none"> 場所・カネ・コーディネート・ニーズの発掘・場所の提供 登録・役割の提供・コーディネート・事務所・全面的な協力 場所・カネ・モノ
事業主体の構成	市民主体(おぢおばBANK) →将来的にはNPO法人化
協働事業にするメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校等、教える先生不足により、部活動の範囲が年々減少しているため、おじさんパワー等広く門を開いて活用してほしい。 ・市だけではできない幅広い教育ができる。おぢ・おばさんの生きがいになる。 ・児童に対する正しい道徳教育の徹底及び不良化防止 ・学校教育の補完 ・子供が健やかに育つ幅広い教育
事業予算(初年度)	やってみないとわからない
予想される問題	<ul style="list-style-type: none"> ・費用の問題(有償ボランティア) ・市の対応の遅さ ・備品がない ・登録の方法(活用のしかた) ・定年退職の方がボランティア等の講座に参加しているが、カルチャースクールに終わり、定員限定されているので、ボランティアをしたい人の枠が少なくなっている。 ・費用の問題 ・市はできることから先にやるべき。データベースの充実

「有償か、無償か」の区別をどうするか。

市に「場所の提供」など以前からお願いしていることが実現していない。



グループ②

女性もいるけど...

銀行はつぶれちゃうけど...

自己のできることを貯めておく場

事業名	おじBANK?
協働の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・自己のできることを自覚し、時間の提供をし、眠っている資源の発掘に努め。自己と社会を豊かにする ・自分の持っている（個人）資源を提供（手芸・いご・本読み・介護病院）への付き添いなど ・協働の目的 ・自己のかくれた技量・趣味など、また希望することを引き出す
<ul style="list-style-type: none"> ・行政の役割 ・市民の役割 ・企業の役割 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域性・目的性・世代別性への区分整理を行い、公平性に努める ・先ず、市民の主だった人にアンケートを配付する ・地域に於ける情報の収集。自治会などを通す広報による。 ・それぞれ一市民として、自己のできることを持ち寄り、登録に基づいて、ニーズに合わせた活動を行う。 ・情報の提供。知人・友人を紹介 ・市民はアンケートに対し、回答を出させる。 ・企業施設の提供に協力を求め、企業資源の活用に努め ・企業の場合は、その企業の協力できる件を市に報告する ・会場等の提供・経営的な協力
事業主体の構成	<ul style="list-style-type: none"> ・登録ボランティア中心。技術、得意分野での提供者と需給調整のコーディネーターが必要。 ・各自持寄ったものによりBANKの構成を行い、事務局を立ちあげ運営する。市内をいくつかに分割して、地元で活動できるように、支店をつくる。 ・地域と地域を結ぶネットワークづくり。センターの設置・コーディネーター市を主体として、各協働活動別に担当者を決め推進する。 費用・場所など問題はある。
協働事業にするメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの生きがい ・地域/学校で必要な技術を提供できる。 <p>各個バラバラに行われているものを整理・総合することにより、整然としたものとして、社会に提供できる。</p> <p>協働事業にするメリット。先ず「生き甲斐」を生ずる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 話をする。笑う。声を出す。 2. 運動（軽い）する。 3. 快食快便をモットーに
事業予算（初年度）	構成員が年間千円程度を支出し、連絡費に当てることにより、当初運営は考える。
予想される問題	既成の事業との関係。

地域間の格差をなくすコーディネートを。

事務局をどうするか?が問題

個人の趣味だって「能力」!

社会を活発にするための手順



グループ3

「おじ」と「おぢ」の違いは、「住民」と「市民」の違いと同じ。積極的に社会に関わるのが「おぢ」さん。

「支店」は中央集権的な感じがするので削除

<本丸>が最終目標だが、まずは外堀を埋めていく。

今回は、教育やスポーツ、芸術関係の人材に絞って検討した

事業名	おぢおばBANK大和 <外堀>プロジェクト	
協働の目的	<ul style="list-style-type: none"> 本・行きづまった教育に市民の正常な感性と価値観で風穴をあける 外・チームティーチング・クラスヘルプを市民で 外・地域の社会資源を生かして、貧しくなっている中学の部活メニューを豊富にする。 	
行政の役割	規制緩和（担当の先生がないと廃部のきまりなど） →部活はクラブチームになる。 →学校は場所を提供する。 ・万が一の事故に備えて、保険の用意 ・設立するクラブチームは届出制にする	
市民の役割	・人材の提供	
企業の役割	企業が持つ情報や技術を子どもたちに伝える（インストラクターの派遣・見学の受入）	
事業主体の構成	その地域のおぢ（市民） 理念や経営はおぢが組み立て、現場は若い人が仕切る	
協働事業にするメリット	おぢさんの生きる力が真の教育改革を実現し、子どもたちに生きる力をつける	
事業予算（初年度）	$900(\text{円}/\text{時}) \times 3(\text{時間}) \times 20(\text{人}) = 54,000(\text{円}/\text{日})$ $54,000(\text{円}/\text{日}) \times 20(\text{日}) = 1,080,000(\text{円}/\text{月})$ $1,080,000(\text{円}/\text{月}) \times 12(\text{月}) = 12,000,000(\text{円}/\text{年})$ $12,000,000(\text{円}/\text{年}) + 3,000,000(\text{諸経費}) = 15,000,000(\text{単年度予算})$ 参考) $15,000,000 \div 500(\text{世帯}) = 30,000(\text{円}/\text{世帯} \cdot \text{年})$	
予想される問題	教育委員会と教師の閉鎖性とことなかれ主義	

最近、部活がどんどんつぶれている!

例えば、インテリジェントビルの見学会などで、情報や技術を子どもたちに伝える

クラブチーム数が15~20くらいだから、1校あたり派遣は20名ほど

最近低下傾向の学力、思考力をつける!

お得なお買い物!!



グループ4

協働事業を「事業」として考えるのは大変なことなんだなあ…

事業名	お宝発見隊
協働の目的	行政で実施できない内容の補完業務 大胆さ・積極性
・行政の役割	場所の提供
・市民の役割	組織の管理・運営
・企業の役割	財政的支援を求められるか
事業主体の構成	43歳以上の男女（一緒に学ぼうよ！）
協働事業にするメリット	埋もれた人材の発掘により、社会参加と個人の生きがいを 専門技術の伝達 総合的学習の講師
事業予算（初年度）	240万
予想される問題	無料の世界から有償の世界へはいれるか？ 小学校で話をする（語りべ） ピアカウンセラー

「大胆さ」「積極性」こそ市民活動の醍醐味！

43歳 = ノーベル賞がもらえる歳!? だから！

学校を対象にするのはいいPRになる。でも果たして予算はつくか…?

とりあえず鉛筆・紙代とかに困らない程度で、小さく始める。

提案者・小杉さんからの総評

みんなで考えてもらって大変広がった。

なぜ「おば」さんではなく、「おぢ」さんか 地域には輝いている女性が多いのに対し、「おぢ」さんが漂流しているように感じた。

市は情報を資源として開示して欲しい。場所も必要だが、埋もれている情報をしっかり整理して提供して欲しい。

タレントプロダクションのようにみなが集えるセンターがあって、我々がまちなり、地域なり、学校なりに入っていきることによって地域が活性化されれば。

予算のイメージはこれから考えていかなければ。

とにかく市民主体でやっていくことが大事。



市民活動課・赤堀さんより

協働事業の課題は、市民団体が技術や情報を活用するときに、コーディネートをする事務局の体制をどうするか。

会費 1,000 円という話もだが、その額で事務局はとてもまかないきれない。行政の支援も必要となる。

人材をコーディネートする人材の育成が必要。

おぢバンクもできることをしっかり位置付けていけば、十分協働事業として成立する可能性がある。



感想カードより



協働事業を具体的に企画するのは、大変な作業でしたが楽しかった。「事業」というのは…大事（おおごと）です。採算ということを考えなければならぬので…。すぐに行政に頼ろうという考えはやめたい。

協働事業として、具体的に提案されたテーマをもとにグループ討議を行なって提案の素案を作るのは良いやり方だったと思う。事業として成立させるにはかなり無理があると思うが、先ずスタートすることが大切だと感じました。スタートすれば自分も参加します。

初めての参加のため、十分な事業の本質の把握ができておりませんでしたので、及び腰になってしまった。本事業に対する一般市民に対する広報・アピール理解などを行政は充分（説明の義務）に行なってください。期待しています。

ワークショップで議論を重ねても、現実に見えない「形」が動いていないと話しがしづらい。具体的な話しをするのなら、次回のワークショップで結果がでていることが望ましいと感じた。

事業として成り立たせるには??

行政に一言!

目に見える形に!

今日は協働事業のイメージをつかみたくて途中から参加させていただいた。熱心な市民がたくさんおられる様子で勇気づけられるものがある。テーマはたしかに事業という点からすれば、まだ、予算やマーケティングの点で課題は多いと思うが、今後時間経過を通じより具体的に詰めるなかで実現性が議論されることだと考えている。

協働事業の事業費は行政からの資金で運営するのでしょうか?

1年ぶりにWSに参加してあまり進歩が感じられない。その最大の要因は、「市」としてこの1年間何をしてきたのかが見えてこない。種々の検討をするのは良いが、頭だけ進んでも意味がない。行政はできることから速やかに実施することが肝要。

今後の課題を認識できた

本日はじめて出席しました。テーマの設定も大変楽しく種々提案させていただきました。行政と市民活動の限界の難しさを改めて認識しています。



WSのすすめ方について一言

限定された内容の中でのツメがむずかしかった。グループごとに災害、おじBANK、子育て等興味のある分野にグループを分けそして、話し合った方が発展性があり、深い意見がでたのではないのでしょうか?

ベテランと初心者が混合されていてまとめるのに苦労した。コーディネーターに良い人がほしい。

おじBANKのアイデアにこだわり教育問題にしばられ幅の狭い協働事業の検討になってしまった。

参考になった

「社会資源」ということばのイメージがより具体的・リアルになってきました。おじBANKの提案者として、しつこくこの中身をつくってゆきたいと思います。様々な役に立つ意見をありがとうございました。

大変良い体験学習ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。今後ともよろしく、ご指導ご鞭撻をお願い致します。取り急ぎ書面にて失礼いたします。

おじBANKを題材に話し合うことになったが、なかなか一つのことを上げるのも大変なことだと思いましたが、良い話し合いだったと思いますし、ヒントが沢山あったと思います。

次回のお知らせ

第3回大和市協働ルールワークショップ

日時:平成14年11月17日(月)13:30 - 16:30

場所:コミュニティセンター鶴間会館 2階集会室

テーマ:『協働事業の指針を考える』